



全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子（案）

令和 年 月

目 次

—第1章 全国都市緑化かわさきフェア基本構想—

- 1 全国都市緑化フェアについて1
- 2 全国都市緑化かわさきフェアについて5

—第2章 かわさきフェアを契機としたみどりのまちづくりに向けた取組—

- 1 みどりのまちづくりに向けて 13
- 2 取組姿勢・目指すべき将来像 14
- 3 かわさきフェア開催の基本理念に基づく取組方針..... 15

—第3章 全国都市緑化かわさきフェア 行催事等計画（骨子）—

- 1 開催のコンセプト・基本方針 18
- 2 基本的事項 19
- 3 会場構成等 20
- 4 事業計画 39
- 5 推進体制 46
- 6 スケジュール 46

—第1章 全国都市緑化かわさきフェア基本構想—

1 全国都市緑化フェアについて

(1) 全国都市緑化フェアの概要

全国都市緑化フェア（以下、「緑化フェア」という。）は、都市緑化の意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として開催するものです。昭和 58（1983）年度に第 1 回が大阪で開催されて以来、全国各地で巡回して開催されています。



<緑化フェアの統一基本理念>

緑ゆたかなまちづくり

～窓辺に花を・くらしに緑を・街に緑を・あしたの緑をいまつくろう。～

<参考：近年の開催自治体（開催予定含む）>

開催年度	回	愛称	テーマ	開催地	開催日程	期間
平成 29 (2017) 年度	34	みどりの丘の花絵巻 はちおうじ 2017	自然とまちと人を結ぶ「みどりの環境調和都市」花とみどりでめぐる「彩り」と「輝き」…見て、学んで、感じよう、はちおうじ…	八王子市	H29.9.16～ 10.15	30 日間
平成 30 (2018) 年度	35	山口ゆめ花博	山口から開花する、未来への種まき。 ～150 年を振り返り、 次の 150 年につなぐ～	山口県・山口市	H30.9.14～ 11.4	52 日間
令和元 (2019) 年度	36	信州花フェスタ 2019 ～北アルプスの贈りもの～	北アルプスの麓から広がる 花と緑に包まれた しあわせ暮らし	長野県・松本市・大町市・塩尻市・安曇野市	H31.4.25～ R1.6.16	53 日間
令和 2 (2020) 年度	37	ひろしま はなのわ 2020	ひろしま はなのわ 2020 「花笑（はなえみ）」 ひろしまから花と笑顔と平和のわ	広島県・広島市 他 22 市町	R 2.3.19～ 11.23 メイン会場： 3/19～ 5/24 67 日間	250 日間
令和 3 (2021) 年度	38	くもと花とみどりの 博覧会～THE GREEN VISION 未来への伝言～	森と水の都くもとで 花と生きる幸せをつむごう	熊本市	R4.3.19～ 5.22	65 日間
令和 4 (2022) 年度	39	ガーデンフェスタ 北海道 2022	花と緑 ～恵みの庭を人がつながる 北の大地から。	北海道・恵庭市	R4.6.25～ 7.24	30 日間
令和 5 (2023) 年度	40	未来の杜せんだい 2023 ～Feel green!～	杜の都から始まる未来、 みどりを舞台に人が輝く	仙台市	R5.4.26～ 6.18	54 日間

(2) 緑化フェアの特徴

ア 人々の心を魅了する、集客力が高い 花・緑のイベント

都市緑化をテーマとした 30 年以上の歴史を持ち、安定した集客が期待できる国内最大級のイベントです。花や緑で彩られた会場は、多くの来場者を魅了するとともに、子どもをはじめとした市民や事業者との連携・協働のもと、都市緑化に取り組む契機となります。

イ 広範囲の地域から多くの来場者を誘うイベント

開催都市はもとより、それ以外の地域からも花、緑に興味のある多くの方々が来訪します。都市緑化意識の啓発や情報発信だけでなく、開催都市の魅力を知っていただくことによる観光振興、個人消費による経済的な波及効果も期待できます。

<過去の開催都市の様子>



第 33 回横浜フェア
里山ガーデン（公園予定地） みなとガーデン（街中）



第 35 回山口フェア
県営きらら博記念公園



第 36 回信州フェア
県営松本平広域公園

ウ 皇室をお迎えする「全国都市緑化祭」の開催

緑化フェアの中心行事である全国都市緑化祭では、皇室からの「おことば」や子どもたちによる「緑化宣言」、地元の緑化活動関係者等への「みどりの社会貢献賞の授与」、「庭園コンテスト」の表彰、緑化フェア会場での皇室による「記念植樹」等が行われ、都市緑化の重要性を強く訴えかけるとともに、緑や花にあふれるまちづくりの推進に寄与します。

<過去の全国都市緑化祭の様子>



平成 30(2018)年 記念式典



令和元(2019)年 皇室による記念植樹
【出典:全国都市緑化祭報告書】

(3) 緑化フェアの事業

緑化フェアで行う事業は、テーマに応じて、次の事業のうち必要なものを選択して行うこととされています。（全国都市緑化フェア開催要綱第7条）

- ア 都市緑化意識の高揚に関する事業
- イ 都市緑化に係る知識の普及に関する事業
- ウ 都市緑化に係る技術の普及・向上に関する事業
- エ 都市緑化に係る資材の頒布に関する事業
- オ 都市公園の整備の促進に関する事業
- カ 都市公園の利用の促進及び運営の活性化に関する事業
- キ 前各号に掲げるもののほか、第1条の目的の達成のために必要な事業

緑化フェアの各事業は、市民、企業、地域の団体等の多様な主体との連携・協働により実施されており、緑化フェア終了後も、継続・発展させる取組が展開されています。

ア 都市緑化意識の高揚に関する事業

緑化の取組の紹介や花と緑の修景による開催都市の魅力を演出するとともに、都市緑化に関わる活動への参加機会を提供することで、市民一人ひとりの都市緑化意識の高揚につながる事業を実施します。

イ 都市緑化に係る知識の普及に関する事業

緑の役割等に関する展示や体験型プログラム、講習会等を通じて、緑化の知識の普及啓発を実施し、自然と緑とふれあい、その大切さを理解できるような事業を実施します。

ウ 都市緑化に係る技術の普及・向上に関する事業

公園づくり、造園緑化、花き園芸等の技術に関する出展、屋上や壁面など都市空間での緑化技術に関する出展等による普及啓発、緑化フェア開催後の緑のまちづくりに活用できるような事業を実施します。

エ 都市緑化に係る資材の頒布に関する事業

オ 都市公園の整備の促進に関する事業

カ 都市公園の利用の促進及び運営の活性化に関する事業

その他、都市緑化の推進や都市公園の整備と利活用の促進に関わる取組を、緑化フェア開催を契機に実施します。

(4) これからの緑化フェアに求められる役割

これからの緑化フェアは、社会経済状況、環境や変化に対する国民意識の変化など、時代の要請に適応した展開を図る必要があることから、国土交通省は、平成 25（2013）年度に有識者による検討会を設け、これまでの開催効果と開催意義を検証するとともに、国民の環境問題に対する関心の高まりなど、新たな要請に適応した今後の緑化フェアに求められる役割を次のとおり提案しています。

ア 「個の活動」とのつながり・ひろがり

- ・個人や家庭での個々の活動が連続し、美しい街並み・地域に対する愛着が生まれる
- ・身近な緑といった小さなデザインの単位から大きな全体像が生まれる
- ・身近な緑への取組に着目し、個の活動との結びつきを構築

イ 地域らしさ・伝統の継承

- ・市民参加型で我がまちへの愛着を高めようという動き
- ・伝統を活かしつつも新しい創造につなげていく取組
- ・地域の暮らしぶりを将来につなげるプライドとして表現

ウ 多様な主体の参加

- ・個人や家庭、市民グループ、民間企業などと一緒に作り上げていく体制の構築
- ・様々な主体が参加することで緑化フェアを地域全体に展開

エ 新たな市場の形成・技術情報の発信

- ・花や緑を活用した新たな技術・アイデアの採用や展示等を通じた新たな市場の形成
- ・緑化フェアでの展示・実体験を通じて技術情報をわかりやすく発信・共有

オ 関連する産業との連携

- ・産業分野と連携したライフスタイルの提案等により緑化フェアの広がりを形成
- ・教育や福祉など、個人や家庭の身近な問題を緑を通じて解決する機会

カ 新しい公園のあり方への提案

- ・公園の管理運営・経営
アメリカの BID※やパークマネジメントの取組など、新しい公園のあり方を提案
- ・規制緩和等に関する社会実験
都市公園の利用の活性化や新たな公園の管理運営・経営に向けて、時代の要請に応じた規制緩和や積極的な公園の再生等が必要であり、緑化フェアにおいてモデル的に実施

キ 緑の啓発

- ・緑の価値の啓発と情報発信
緑は、暮らしの豊かさを測るものさし（評価軸）となり、あらゆる分野をつなぐことのできるツールであることから、緑化フェアを通じて、都市が抱える様々な課題の解決
- ・「緑育」の展開
心の豊かさを再構築していく「緑育」を緑化フェアの中で推進

※ BID（Business Improvement District）

- ・地域活性化を進めるために、地域内の合意を基に設立される組織。
- ・地域内で拠出される負担金を主財源とするもので、清掃や治安維持、地域振興など独自の活動を行うもの。

2 全国都市緑化かわさきフェアについて

本市では、これまでの 100 年を振り返り、次の 100 年に、より豊かな環境をつないでいくきっかけとなり、全国へ川崎のみどりを発信するため、市制 100 周年を迎える令和 6（2024）年度の全国都市緑化かわさきフェア（以下、「かわさきフェア」という。）の開催を目指して、次のとおり基本的な考え方やコンセプト等を示した「全国都市緑化かわさきフェア基本構想（以下、「基本構想」という。）」を、令和 3（2021）年 3 月に策定しました。

－ 基本構想 －

（1）川崎の緑のあゆみ

川崎の緑の原風景は、北西部の丘陵地帯では、丘陵台地上の畑、果樹園や、クヌギ・コナラ等の二次林、浸食谷面の斜面林などの豊富な緑、南東部の沖積低地は、江戸時代に完成した農業用の二ヶ領用水を基にして形成された水田地帯でした。

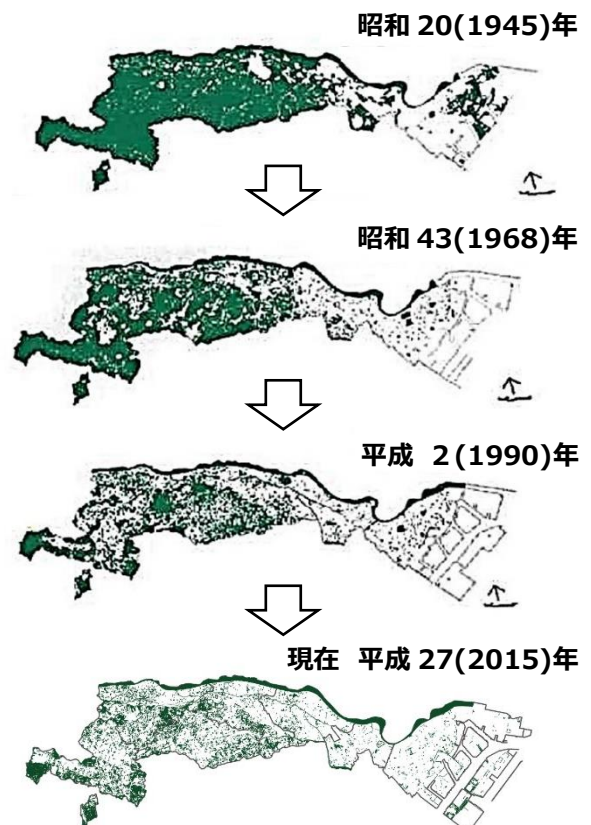
公園緑地の整備については、昭和 11（1936）年に、富士見公園が本市初の都市計画公園として都市計画決定・整備が行われ、その後、生田緑地や等々力緑地など基幹となる公園の整備が進められてきました。

一方、明治時代後半から工場の立地が進み始め、戦後の高度経済成長期には、京浜工業地帯の中枢を担う工業都市として、川崎は大きく発展してきました。しかし、その代償として、大気汚染や都市型の環境問題等に直面するとともに、北西部地域では宅地開発が進み、昭和 30（1956）年代後半から、緑の大幅な減少が見られるようになりました。

このような社会状況から、昭和 46（1971）年に、北西部地域の自然破壊を阻止しようとする住民運動が起きたことがきっかけとなり、残された貴重な緑の保全を求める声が次第に大きくなっていきました。

こうした状況を受けて、本市では、昭和 48（1973）年 10 月に、「川崎市における自然環境の保全及び回復育成に関する条例」（現・「川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例」）を全国に先駆けて制定するなど、市民と行政のパートナーシップにより樹林地等の保全・育成に関する取組を進めてきました。

そして、現在では、こうした取組が市内に広がり、行政、市民、企業等の多様な主体の連携・協働により、緑の保全及び育成、創出、活用が進展してきたことで、多摩丘陵や多摩川などの豊富な緑と水といった自然環境が、本市の魅力のひとつとなっています。

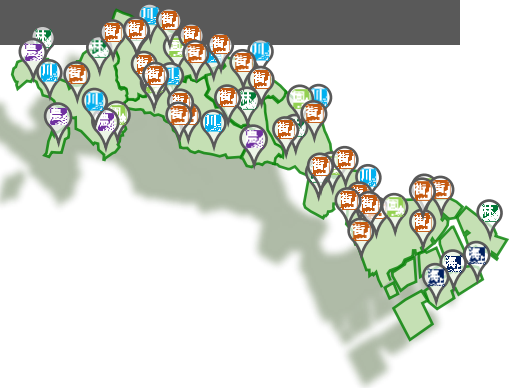


【図：緑の分布の推移】

（出典：川崎市緑の基本計画）

(2) 川崎の多様な緑

本市は、多摩丘陵、多摩川崖線、多摩川、臨海部などの重要な自然的環境資源で形成され、南部から北部まで、まちなかの緑や公園緑地、樹林地、河川、農地などの多様なみどりを有しています。



まちなかの緑【地域緑化推進地区：27 地区（令和 2（2020）年 4 月現在）】

- ・地域や民間企業等の自主的な緑化の取組を推進しています。



地域緑化推進地区の普及促進



事業所緑化の推進



公園緑地【市民一人あたりの公園面積：4.95 m²（令和 2（2020）年 3 月現在）】

＜本市の三大公園＞

- ・富士見公園

市の南部に位置する総合公園で、周辺には市民利用施設が集積しており、市民の憩いの場や様々な活動の拠点となっています。



- ・等々力緑地

市のほぼ中央に位置し、多数の運動施設、文化施設、市民の憩いの場など多面的な機能を有する総合公園です。



- ・生田緑地

市の北西部、多摩丘陵の一角に位置する市内随一の緑の宝庫です。緑地内には個性豊かな文化施設も設置されています。



＜身近な公園の利活用＞

- ・社会状況や市民ニーズの変化に対応した公園緑地の柔軟かつ多様な利活用を推進しています。



樹林地【保全した樹林地等：約 245ha（令和 2（2020）年 3 月現在）】

- ・樹林地の保全

緑地総合評価と土地所有者の協力により樹林地の保全を推進しています。

- ・多様な主体との連携

民間企業・教育機関等との連携による里山の保全活動を推進しています。





河川

- ・川崎市新多摩川プランの推進
「川とふるさととの再生、市民協働による多摩川ライフの創造」を基本理念に、多摩川の特性を活かした取組を推進しています。
- ・中小河川等の水辺地の保全
二ヶ領用水をはじめ、地域との連携による水辺に親しめる環境整備を推進しています。



農地【農地面積：約 547ha（令和 2（2020）年 5 月現在）】

- ・都市農地の保全
良好な都市環境の維持、防災機能の発揮など多面的な農地の活用を推進しています。
- ・農業への理解の促進
市民と「農」を結ぶイベントや農業体験機会の創出などを推進しています。



臨海部【事業所敷地 10%以上の緑化推進目標とした協定締結推進：約 130ha 緑地創出（令和 2（2020）年 3 月現在）】

- ・「臨海のもり」づくり
事業所の緑化地や、港湾緑地・都市公園などの公共緑地を風の道となる街路樹等の緑でつなぎ、運河や多摩川の水辺環境も含め、臨海部全体を緑豊かな「もり」と想定し、臨海部全体の発展と楽しさや魅力を感じられる環境形成を目指して取組を推進しています。



(3) 川崎の強み

ア 多様性は可能性

川崎は、まちの発展に伴い多くの人が移り住むようになり、様々な国の人が何世代にもわたり生活するなど、多くの人々が暮らす中で、多様な文化や価値観を上手に取り入れる「寛容さ」で、独自の「多様性」を育んできました。

東京・横浜という大都市に隣接する利便性もあり、現在でも人口が増え続け、新たな産業が生まれている川崎は、「多様性」と「寛容さ」にあふれているからこそ、今でも新たな文化が育まれ、100 年前から今日まで「多様性」にあふれるまちとして発展し続けています。

川崎には固定的なイメージはなく、「多様性にあふれたまち」だから、これからたくさんの新しい文化が生まれ、発展し続ける「可能性にあふれたまち」です。



川崎の「多様なみどり」を活かそう

多様性に富んだ魅力と常に変化を受け入れる寛容さを持つ川崎だから
「多様なみどり※」も上手に活用して新たな文化を生み出すことができる



北西部の樹林地の
活動イメージ



都市農地の
活用イメージ



まちなか・商店街での
活動イメージ



臨海部に広がる
緑地イメージ

※「みどり」の考え方

かわさきフェアでは、生物多様性がもたらす「基盤サービス」（光合成、栄養循環、水や空気の浄化）・「供給サービス」（食料や資源の供給）・「調整サービス」（暑熱化の緩和や災害軽減）・「文化的サービス」（精神充足、レクリエーション）の4つの「生態系サービス」も含めた多様な機能と効果を「みどり」として捉えるものとします。

なお、漢字の“緑”は川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例第2条第1項に基づき、樹木等の植物、樹林地、水辺地、農地等の自然環境を有する土地及び空間並びにそこに生息する動植物の育成基盤である土、水等の自然の要素とします。

イ 豊かな環境をつくる

川崎は、これまでの 100 年の歴史の中で、経済成長とともに、公害対策や緑地の保全、生活環境の向上など、様々な環境問題に市民、事業者などと協力して取り組んできました。

地球規模で気候変動対策等が課題となっている中、川崎が様々な課題にこれまで市民、事業者などと取り組んできた歴史と、持続可能な社会の実現に向けた取組が国から評価され、令和元（2019）年 7 月には「SDGs 未来都市」に選定されています。

また、令和 2（2020）年 11 月には、脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050」を策定し、令和 32（2050）年の脱炭素社会の実現に向けた取組を進めています。

川崎はまちの発展とともに環境問題に取り組んできた実績があり、より豊かな環境を未来につないでいく力を持っています。



川崎の「多様なみどり」を活かそう

みんなで環境問題に取り組んできた川崎だから
「多様なみどり」も上手に活用してさらに豊かな環境をつくることができる



雨水を抑制、活用するグリーンインフラ
【レインガーデン（ポートランド）】



鉄道高架跡地を活用したグリーンインフラ
【ハイレイン（ニューヨーク）】

ウ 新たなライフスタイル

川崎は、その利便性の高さゆえに希薄になりやすい人と人のつながりを大事にしてきました。また、都市部であるからこそ、多摩丘陵や多摩川など豊かな自然環境を、市民協働により維持・保全に取り組むとともに、都市農業の振興にも努めてきました。

現在、新型コロナウイルスが世界的な大流行となり、日々、社会状況が急速に変化するなど、先が見えない不安に直面している中で、人々の暮らしには生活様式の変化が起きています。

また、サイバー空間（仮想）とフィジカル空間（現実）が高度に融合する「Society 5.0」が提唱されるなど、社会や生活環境に大きな変化が起こり、今までのライフスタイルを見直す時期が来ています。

これからの社会に求められる、新たなライフスタイルに活用できる人のつながり・自然環境・資源を、川崎は持っています。



川崎の「多様なみどり」を活かそう

利便性の高さゆえに人のつながりや自然環境を大事にしてきた川崎だから
「多様なみどり」も上手に活用して新たなライフスタイルを生むことができる



みどり豊かなコワーキングスペース
(小田急 黒川駅前)



高層オフィスビル屋上に広がる
都市部のみどりの空間

(4) かわさきフェア開催の意義（未来の川崎に向けて）

本市は、令和 6（2024）年 7 月に市制 100 周年を迎えます。

これまで本市では、110 年ほど前から臨海部が埋め立てられ工業が発展するとともに、徐々に北部に向かって都市開発がされていく中で、多くの樹林地が失われ、それと引き換えに利便性の高い都市が生まれてきました。

しかし、近年では社会状況や市民のライフスタイルの変化に伴い、暮らしの中にみどりを取り入れる動きが広がるなど、みどりの価値が大きく変わろうとしています。

川崎の持続的な発展を目指す上では、積極的に SDGs の達成や脱炭素社会の実現に寄与する取組を進めていく必要があり、この取組においても、みどりの果たす役割はとても重要です。

これまでの川崎の 100 年を振り返り、これからの川崎をどのようなまちにしていくのか？

川崎だからできることって何なのか？

そして、みどりが持つ力を使って、川崎らしく、次の 100 年により豊かな環境をどうつないでいくのか？

これまでの川崎のみどりの歴史、資源、強みなどを振り返りながら、みどりについて市民の皆さんと一緒に考え行動することで、川崎の新たなみどりの文化を醸成し、誰もが住み続けたいまちへとつなげていく、そのための大きなチャンスであると捉え、緑化フェアを本市で開催し、“川崎らしいみどり”を全国に向けて発信することとします。

かわさきフェア開催の意義

- 1 市民が暮らしの中で、積極的にみどりを取り入れるためのきっかけをつくること
- 2 みどりに関する機運を高め、市民の行動につなげていく契機とすること
- 3 市民の行動が新しい川崎のみどりの文化を育み、誰もが住み続けたいまちにつなげていくこと

(5) 基本的な考え方・コンセプト

かわさきフェア開催の意義を踏まえ、次の 100 年に向けて、川崎の持つ多様なみどりの力を使って、川崎の強みを活かしながら、川崎の持続的な発展を目指していくため、基本構想を踏襲し、以下のとおり、基本理念及びコンセプトを設定しました。

ア 基本理念

- I** かわさきフェアは、「みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組」を推進します。
- II** 川崎の多様な人・暮らし・みどりを結びつけることで、フェア終了後も続く「みどりのムーブメント」を推進します。
- III** かわさきフェアのレガシーとなる地域愛を持った市民が、次の 100 年に向けて、川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。

イ コンセプト

Green For All ! でみどりのムーブメントを起こします

みどりは、すべての人に等しく存在し、まちづくりや暮らしのすべての場面で多様な効果を発揮します。

(6) かわさきフェアのフィールド

地域ごとに様々な顔を持つ川崎の多様なみどりを活用して、お互いの特色を知り、交流を育み、みんなで川崎の魅力と価値を高めていくため、かわさきフェアをきっかけとして、川崎の多様なみどりを知り、活かす取組を全市的に展開します。

—第2章 かわさきフェアを契機としたみどりのまちづくりに向けた取組—

1 みどりのまちづくりに向けて

緑には、環境保全、レクリエーション、防災、景観形成などの主要な機能や効果がある他、自然環境教育、中心市街地活性化、観光、産業振興、健康福祉、子育て・情報交換等の場としての多様なポテンシャルがあります。

多発する自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより社会状況が大きく変化する中で、緑とオープンスペースにおいては、従来のコミュニティ活動の場やグリーンインフラ、人々のストレス緩和や運動不足の解消など健康的に過ごせる場としてだけでなく、テレワーカーの作業場所やフィットネス利用、キッチンカーの配置による賑わいの創出など、利用形態の多様化や柔軟な活用に対するニーズが高まっています。

こうしたことから、緑を取り巻く社会状況の変化や市民ニーズの多様化に柔軟に対応しながら、**緑の機能を十分に発揮させるとともに、その多様な効果を実感できるようにする**必要があります。

かわさきフェアでは、生物多様性がもたらす水や空気の浄化、食料や資源の供給、暑熱化の緩和、人々の心を豊かにして安心感をもたらすといった、多様な機能と効果を含めて「みどり」として捉えています。

みどりが持つ多様なポテンシャルを、川崎の共有の財産として認識するとともに、みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、みどりの多様な効果が実感でき、人々が暮らしやすく住み続けたいまちとするため、市民や企業、行政などの多様な主体と将来像を共有しながら、みどりのまちづくりに取り組んでいくことが重要です。

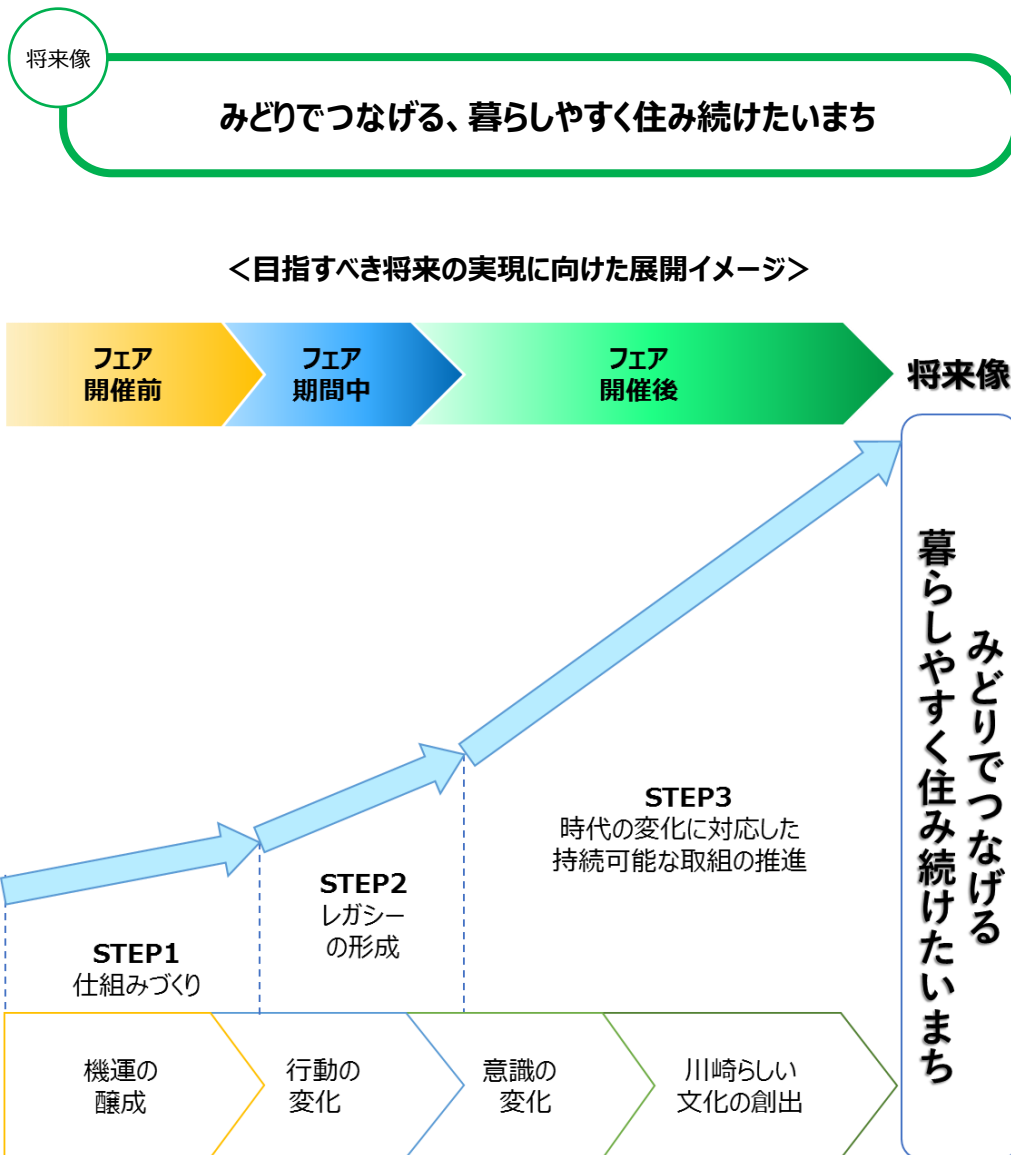
みどりのまちづくりに取り組むにあたっては、**一人ひとりが持続可能なまちづくりなどのSDGsの趣旨を十分に理解しつつ、目指すべき将来像を描きながら取組を進める必要**があります。また、**市民や企業、団体など多様な主体との連携を図りながら、経済・社会・環境の三側面の調和や統合的な向上を目指した取組を推進することが重要**です。



2 取組姿勢・目指すべき将来像

昨今の社会状況の変化等を踏まえ、かわさきフェアを契機として、みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、ウェルビーイング※を実現し、住み続けたいと思われ続けられるようなまちをつくるため、目指すべき将来像を設定します。

その将来像の実現を目指し、かわさきフェア開催以降にもつながる様々な取組を、かわさきフェア開催前から展開していきます。



※ウェルビーイング

現代的ソーシャルサービス(社会福祉事業)の達成目標として、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。昭和 21 (1946) 年の世界保健機関 (WHO) 憲章草案において、「健康」を定義する記述の中で「良好な状態 (well-being)」として用いられた。最低限度の生活保障のサービスだけでなく、人間的に豊かな生活の実現を支援し、人権を保障するための多様なソーシャルサービスで達成される。(出典:「知恵蔵」(株)朝日新聞出版発行)

3 かわさきフェア開催の基本理念に基づく取組方針

目指すべき将来像の実現に向けて、かわさきフェア開催の基本理念を踏まえた将来に向けた取組方針を設定し、取組を進めます。

【基本理念】

I かわさきフェアは、「みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組」を推進します。

～100年先の笑顔のために、持続可能で最先端の都市緑化の推進～

【課題認識】

- みどりとオープンスペースは、コミュニティ活動や地域の活性化のためのエリアマネジメント活動の場として、ポテンシャルが高い場所です。社会状況の変化により、公園や広場などのみどりとオープンスペースの重要性が再認識されるとともに、フィットネス利用やテレワーカーの作業場所、キッチンカーの配置など、柔軟な活用に対するニーズの高まりに応じた利用形態の多様化が進んでいます。
- また、人々の健康づくりや幸福度の向上へ寄与し、五感を刺激する精神的な効果等を生かすためのウォークアブルな空間の形成等のため、日常生活の中でも、みどりとオープンスペースを活用できるようなネットワークの形成が重要です。
- その際、既存の公園・緑地が量・質的に限定的であることや他の施設との連携不足といった課題に対応しつつ、人々が多く集まる公園・緑地、民間空地等の広場、街路空間、水辺空間、都市農地など、市域全体で、地域ニーズに応じた総合的かつ柔軟な活用が必要となるとともに、グリーンインフラとしての効果を戦略的に高めていけるような工夫が必要です。

【取組方針】

- 市民一人ひとりのニーズや各地域の活動団体等のニーズを捉えて、みんなが生き生きと居心地よく活動できる空間の創出を進めます。また、みどりの多様な効果が十分に発揮された質の高いみどりを取り入れる仕掛けづくりを行うとともに、グリーンインフラの取組が推進できるよう、みどりの適正な保全、創出、育成及び活用を進めます。
- 次の100年も、川崎に住みたい、暮らしたいと思われるよう、社会状況の変化や市民の多様なニーズに対応しながら、最先端の技術が集積する川崎ならではの、柔軟かつ多様な手法による都市緑化を推進します。

【取組イメージ】

- ・日常にみどりを取り入れる仕掛けづくり（バイオフィリックデザイン[※]の導入など）
- ・グリーンインフラの推進による戦略的なまちづくり
- ・市民ニーズに即した自由に利用できるみどりとオープンスペースの創出
（子育てや地域コミュニティ・健康・レクリエーションの活動等の場の提供）

※バイオフィリックデザイン

「人間には“自然とつながりたい”という本能的欲求がある」という概念を反映した空間デザインの手法

【基本理念】

Ⅱ 川崎の多様な人・暮らし・みどりを結びつけることで、フェア終了後も続く「みどりのムーブメント」を推進します。

～みどりが持つ力で、誰もがオープンにつながり、様々なイノベーションを起こす社会モデルの構築～

【課題認識】

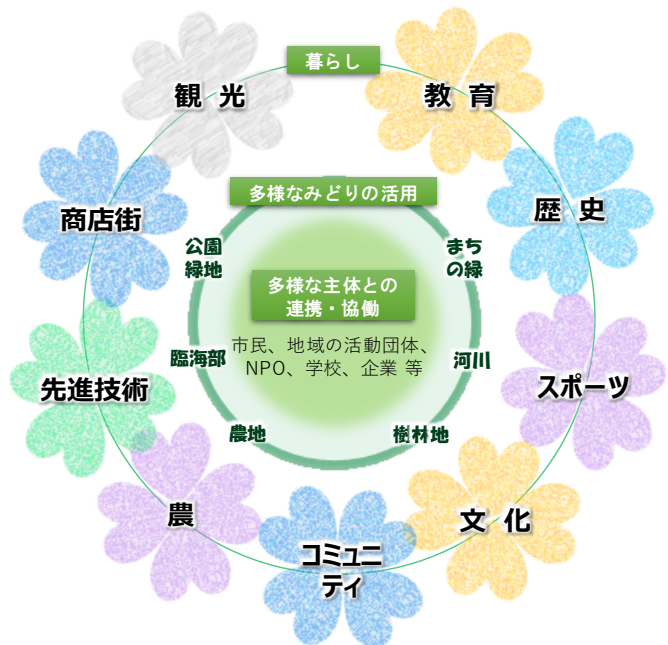
- みどりは、市民一人ひとりに身近で、すべての人に平等に存在する空間であり、人や環境に優しいライフスタイルなど、新たなコミュニティの形成や様々な活動の促進が図られる空間です。みどりの持つ力を個人だけでなく多くの人々で共有・共感し、新たなコミュニティ活動を促進させるための取組が必要です。
- 川崎の多様な人・暮らし・みどりを結びつけるためには、多様な地域課題や市民ニーズに対応する必要があります。これらに迅速かつ柔軟に対応するためには、行政だけでは対応が難しい課題も増えていることから、地域のリーダーや未来を担う若い世代、経験豊富な高齢者といった幅広い世代や地域で活動する団体・企業・大学等の柔軟なアイデア、企業等の技術力を生かして、多様な主体間で協力して取り組むことが大切です。
- また、これらは、単発的な取組では、社会状況の変化や変わりゆく市民ニーズに対応しづらいことから、随時対応できるよう、継続的に取り組む必要があります。

【取組方針】

- 多様なみどりを対象として、市民、企業等あらゆる主体が自由に参加し、協働・共創で、それぞれの持つ独自の技術や柔軟なアイデア、ノウハウ、知識などを組み合わせることにより、川崎のみどりの新たな価値を生み出す仕組みを構築し、全市的なみどりのムーブメントにつなげていきます。

【取組イメージ】

- ・個人や家庭、グループ等が気軽に参加できる機会の創出
- ・地域の課題や活動実態、市民ニーズに即した、多様なみどりを活用し、継続できる多様な主体との連携・協働の体制づくり など



【基本理念】

Ⅲ かわさきフェアのレガシーとなる地域愛を持った市民が、次の１００年に向けて、川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。

～誰もが生きる喜び、幸せを感じられる多様性あふれる文化の創出～

【課題認識】

- みどりは、人や環境に優しいライフスタイルなど、新たなコミュニティ活動を促進し、人々の心を豊かにする力を有しています。みどりをどのように有効に活用するか、共通のものさしや評価の基準で暮らし方を再考する必要があります。
- また、みどりを通じて川崎の地域愛を持つ市民を育むためには、都市としての価値や魅力を高め、そこに住む人々が暮らしやすく住み続けたいと感じるための取組を進めていく必要があります。

【取組方針】

- みどりを通じて、地域の愛着を高め、市民一人ひとりが個性を尊重しあい、生きがいを持って活躍できるといった、川崎らしい多様性あふれる文化の創出につながる取組を推進します。
- 都市におけるみどりの大切さを啓発するみどりに関する教育（＝緑育）を推進するため、みどりの多様な効果をできる限り見える化し、わかりやすく普及啓発することで、みどりを大切にする豊かな心を育む取組を展開します。

【取組イメージ】

- ・地域のみどりの質を高める人材の育成
- ・地域の歴史的資源、文化財の保存や活用
- ・みどりで季節を感じられる景観やまちなみの形成
- ・観光スポットやイベント等による賑わいの創出
- ・みどりの副読本等の教材を活用した緑育の普及啓発 など

—第3章 全国都市緑化かわさきフェア 行催事等計画（骨子）—

本章は、市制 100 周年の節目の年となる令和 6（2024）年度に開催するかわさきフェアで行う行催事等に関する必要な事項を定めるものです。

1 開催のコンセプト・基本方針

かわさきフェアでは、みどりが持つポテンシャルを効果的に活用し、これまで培ってきた川崎の強みや各地域の特色を活かしながら、各分野の取組と連携して、多様な主体がつながり、行動するきっかけとする市民総参加型のフェアとなるよう、取組を展開していきます。

そのため、開催意義、基本理念、取組方針に加え、国土交通省が平成 25（2013）年度に提案した「これからの全国都市緑化フェアに求められる役割」を踏まえ、次のとおり、かわさきフェアの基本方針を設定しました。

【コンセプト】

Green For All！でみどりのムーブメントを起こします

【基本方針】

ア かわさきの多様なみどりの“力”を感じるフェア

- ・生物多様性や都市が抱える様々な課題の解決につながる、グリーンインフラの持つ多様な機能や効果の発信
- ・身近なみどりやオープンスペースを活用して、市民一人ひとりが生き生きと居心地よく活動できる空間の創出

イ 先端技術で新たな都市緑化の“形”をつくるフェア

- ・フェアを通じた川崎の持つ最先端の技術、アイデアによる新しい都市緑化の実現
- ・市民一人ひとりのライフスタイルに対応した新しい公園の使い方の提案

ウ 多様なみどりでつながる“行動”を生み出すフェア

- ・市民、企業等が気軽に集い、新たな出会いやつながりを生みだす場づくり
- ・多様な主体がつながり、フェア開催後も、みどりに関わる様々な取組を継続・発展しながら、川崎のみどりの新たな価値を生み出していく仕組みづくり

エ 環境・社会・経済的価値を同時に実現できる“社会”を示すフェア

- ・これまで培ってきた川崎の強み（先進技術、文化・芸術、自然環境、名産品など）を活かして、SDGsの達成や脱炭素社会の実現に向けた、川崎のみどりが持つ多様なポテンシャルの発信

オ かわさきらしい多様性あふれる“文化”を育むフェア

- ・これまでのみどりの歴史を振り返るとともに、未来の川崎に向けて、地域への愛着を持った市民一人ひとりが、暮らしの中でみどりと関わりながら、地域性あふれる多様な文化を育む機会の創出

2 基本的事項

【1】名 称

第 41 回 全国都市緑化かわさきフェア

【2】主催者等

提 唱：国土交通省

主 催 者：川崎市、公益財団法人都市緑化機構

実施主体：かわさきフェアの実行組織として実行委員会を設立

【3】開催期間

各区の特色あるみどりを感じ、それぞれの地域資源を活かした個性的な取組を全市的に展開していくため、各区の木や花の見頃などを踏まえて、次のとおり、秋、春の季節ごとに開催期間を設定しました。

・令和 6 年 10 月中旬～11 月上旬（20 日間程度）

・令和 7 年 3 月上旬～ 3 月下旬（30 日間程度）

【4】会場

ア コア会場

富士見公園、等々力緑地、生田緑地の 3 つの公園をコア会場とします。

イ 協賛・連携会場等

駅、商業施設、民有空地、区役所、緑化推進重点地区、公園緑地、バーチャル会場 等

【5】入場者規模

会場条件、事業内容、交通対策、新型コロナウイルス感染症への対応等を勘案して、基本・実施計画において設定します。

【6】概算事業費

基本・実施計画において設定します。

【7】入場料設定

会場等は無料を基本とします。

※一部において有料エリアの設定や有料プログラムを検討します。

【8】愛称・シンボルマーク

市のブランドメッセージの活用を基本としつつ、川崎市制 100 周年にあわせて行われる記念事業と連携し、川崎らしく、市民に親しまれるものを設定します。

3 会場構成等

(1) 会場構成

ア 会場構成の考え方

- ・地域ごとに様々な顔を持つ川崎の多様なみどりを活用して、お互いの特色を知り、交流を育み、みんなで川崎の魅力と価値を高めていくため、かわさきフェアをきっかけとして、川崎の多様なみどりを知り、活かす取組を全市的に展開します。
- ・各区の魅力や特色を活かして、市民、企業、地域団体等と連携して取り組んでいる地域の課題解決や魅力向上に向けた個性的な取組を、フェアを通じて発信します。
- ・多摩丘陵、多摩川崖線、多摩川、二ヶ領用水、街路樹といった本市を特徴づける自然資源により形成されるネイチャーコリドー※を活かして、それぞれの地域の特色ある取組を相互に連携することで、市内全体で一体感を生み出します。

※ネイチャーコリドー

地形的に連続した樹林地や河川

イ コア会場

- ・市内の南・中・北部それぞれに立地する3つの総合公園をコア会場とします。
南部：富士見公園 中部：等々力緑地 北部：生田緑地
- ・コア会場では、市民、企業、地域団体等の多様な主体と連携して、各公園及び周辺地域の特色や資源を活かした取組を展開します。
- ・コア会場及び周辺の協賛・連携会場間の回遊性向上を図るとともに、各取組を効果的に連携させることで、相乗効果を生み出します。
- ・公式行事等の行催事については、屋内会場及び周辺の安全対策、交通対策に加えて、本市のこれまでのみどりの歴史を振り返り、新たな時代の幕開けとなることなども勘案して、本市初の都市計画公園である富士見公園での開催を想定しています。

ウ 協賛・連携会場等

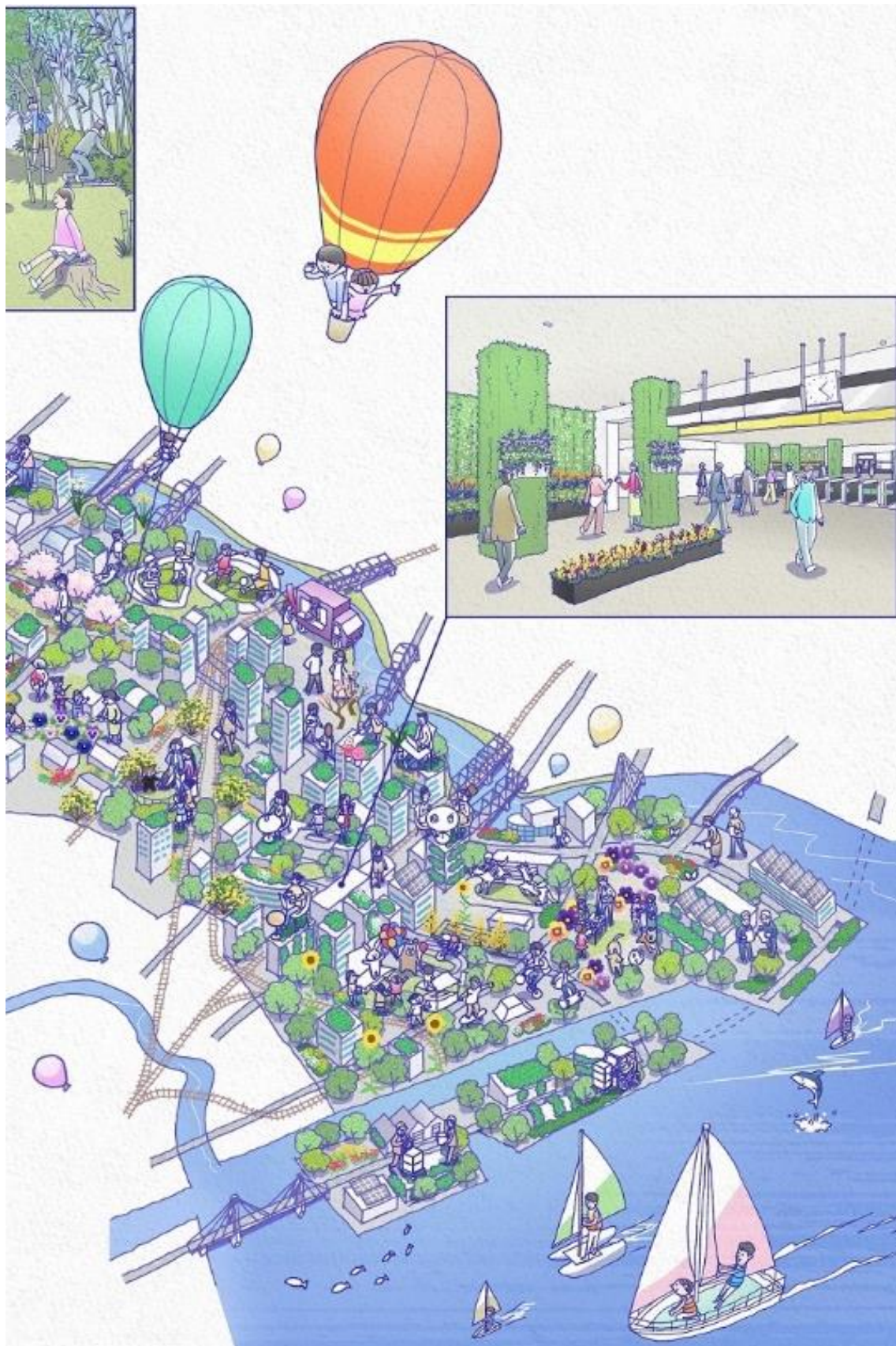
- ・協賛・連携会場では、みどりとオープンスペースを効果的に活用して、各地域における市民、企業、地域団体等の多様な主体と協働・連携した取組にスポットをあて、それぞれの特色を活かした取組を市内全域で展開します。

(例) 駅、商業施設、民有空地、区役所、緑化推進重点地区、公園緑地 など

- ・市民一人ひとりが、それぞれの暮らしの中で、みどりと関わりを持ち、みどりに親しみ、その効果を実感できる取組を展開します。
- ・先進技術を活用し、会場をデジタル空間上に再現するなど、誰もがかわさきフェアを体感し、参加できる仕掛けを検討します。

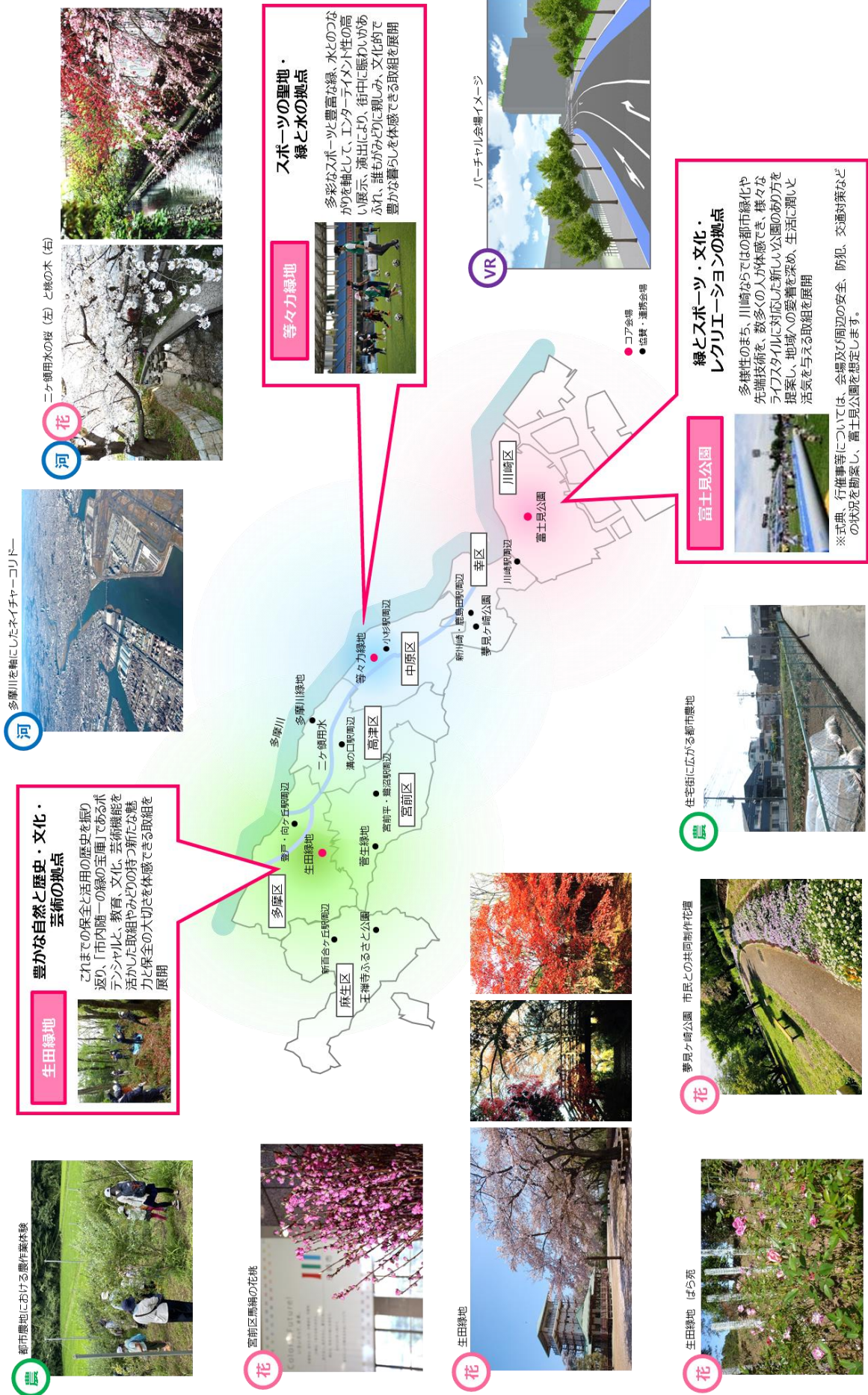
＜参考：全市展開のイメージ図＞





※今後、変更となる可能性があります。

＜参考：会場及び本市の主な自然資源など＞



<参考：各区の主な特色など>

区	主な特色	主な協賛・連携会場イメージ
川崎	・富士見公園を拠点としたまちの賑わい創出に寄与するまちづくり ・臨海部の魅力的なロケーションを活用した交流と賑わいの創出	川崎駅周辺、 臨海部（キングスカイフロントなど） 他
幸	・御幸公園における梅香事業の推進による地域の魅力創出 ・夢見ヶ崎公園を活用した賑わいの創出、地域コミュニティ形成	新川崎・鹿島田駅周辺、川崎駅西口、 御幸公園、夢見ヶ崎公園 他
中原	・小杉駅周辺の公共空間を活用した居心地がよく住みやすいまちづくり ・等々力緑地におけるパークマネジメントの推進によるまちの賑わい創出	小杉駅周辺、多摩川緑地、 特色ある商店街（ブレーメン通り） 他
高津	・多摩川や二ヶ領用水、橘樹官衙遺跡群など、緑、水辺と一体となった魅力的なまちづくり ・地域資源を活用した持続可能な地域社会（エコシティたかつ）の形成	溝の口駅周辺、多摩川緑地、 二ヶ領用水、橘樹官衙遺跡群 他
宮前	・生田緑地を拠点とした豊かな自然と歴史・文化・芸術の魅力を活かしたまちづくり ・歴史的遺産や農といった地域資源を活用し、緑、水と一体となった魅力的なまちづくり	宮前平・鷺沼駅周辺、菅生緑地、野川・ 有馬などの植木の里、平瀬川 他
多摩	・生田緑地を拠点とした豊かな自然と歴史・文化・芸術の魅力を活かしたまちづくり ・里地里山の保全や豊かな自然資源を活用した交流、賑わいの創出	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺、多摩川緑地、 緑化センター 他
麻生	・保全緑地における保全と利活用の取組による子どもたちがのびのびと自然にふれあい成長できる空間づくり ・農ある風景の保全と農家・市民と連携した地域農業の振興による魅力的なまちづくり	新百合ヶ丘駅周辺、王禅寺ふるさと公園、 王禅寺四ツ田緑地、黒川・早野・岡上などの里地里山・農地 他

(2) コア会場

ア 富士見公園

<コンセプト> 緑とスポーツ・文化・レクリエーションの拠点

本市初の都市計画公園であり、様々な市民利用施設が集積し、市民の憩いの場やスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点となっている富士見公園では、多様性のまち、川崎ならではの都市緑化や先端技術を、数多くの人が体感でき、様々なライフスタイルに対応した新しい公園のあり方を提案し、地域への愛着を深め、生活に潤いと活気を与える取組を展開します。

<取組イメージ>

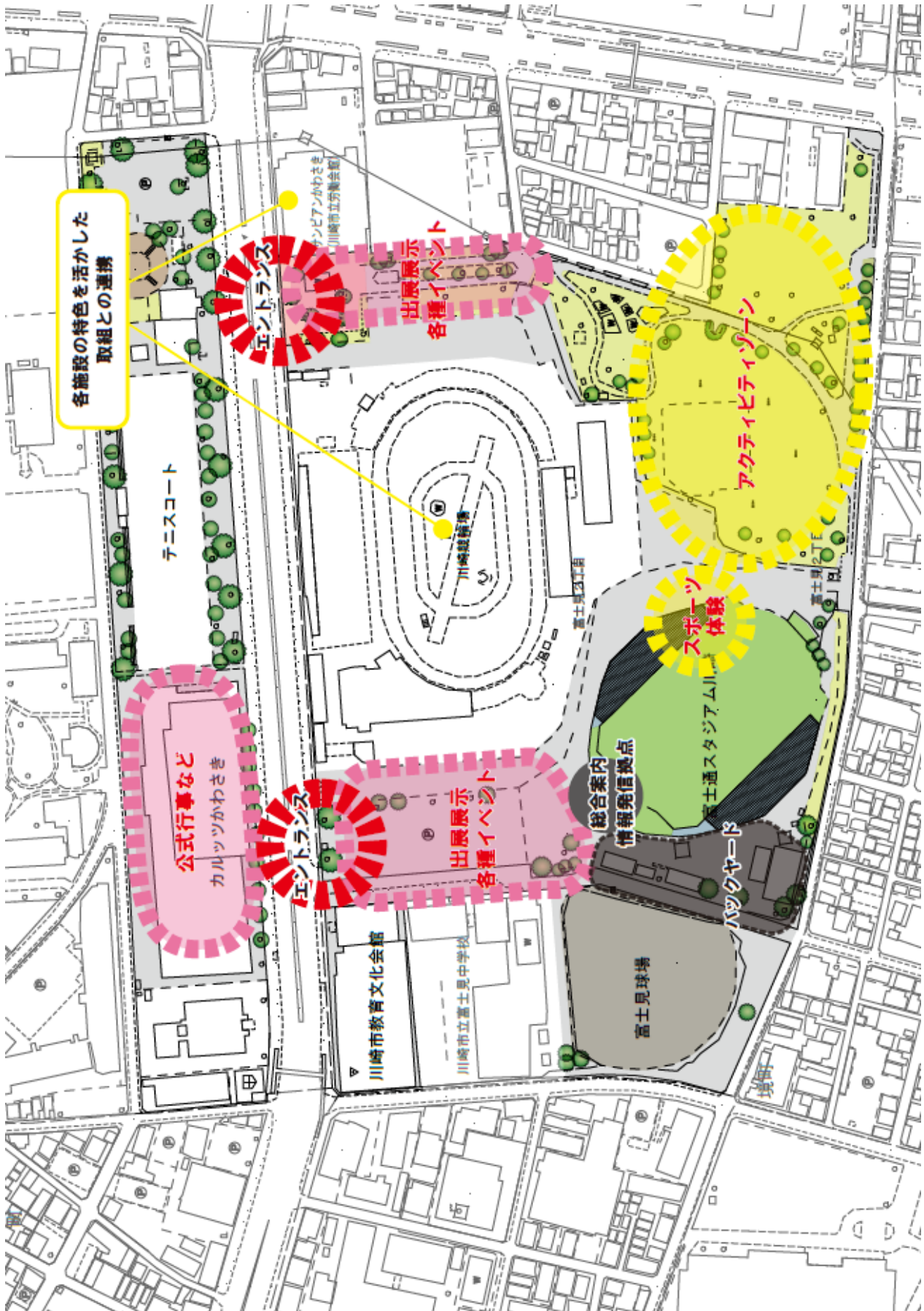
- ・富士見公園では、川崎ならではの多様性や先進性あふれる様々な取組を発信する企画展示や、アクティビティを通じて、市民のライフスタイルに溶け込んだ公園の新しい使い方を体感できるプログラムを展開します。
- ・カルッツかわさき、労働会館、川崎競輪場など、富士見公園周辺の施設との連携を図り、各施設の特徴を活かした企画展示、体験型プログラムなどを展開します。
- ・川崎が誇る企業等の先進技術を全国に発信する企画展示や、市民・地域の団体等が日頃取り組んできた成果を発信する市民発信型のプログラムを展開します。



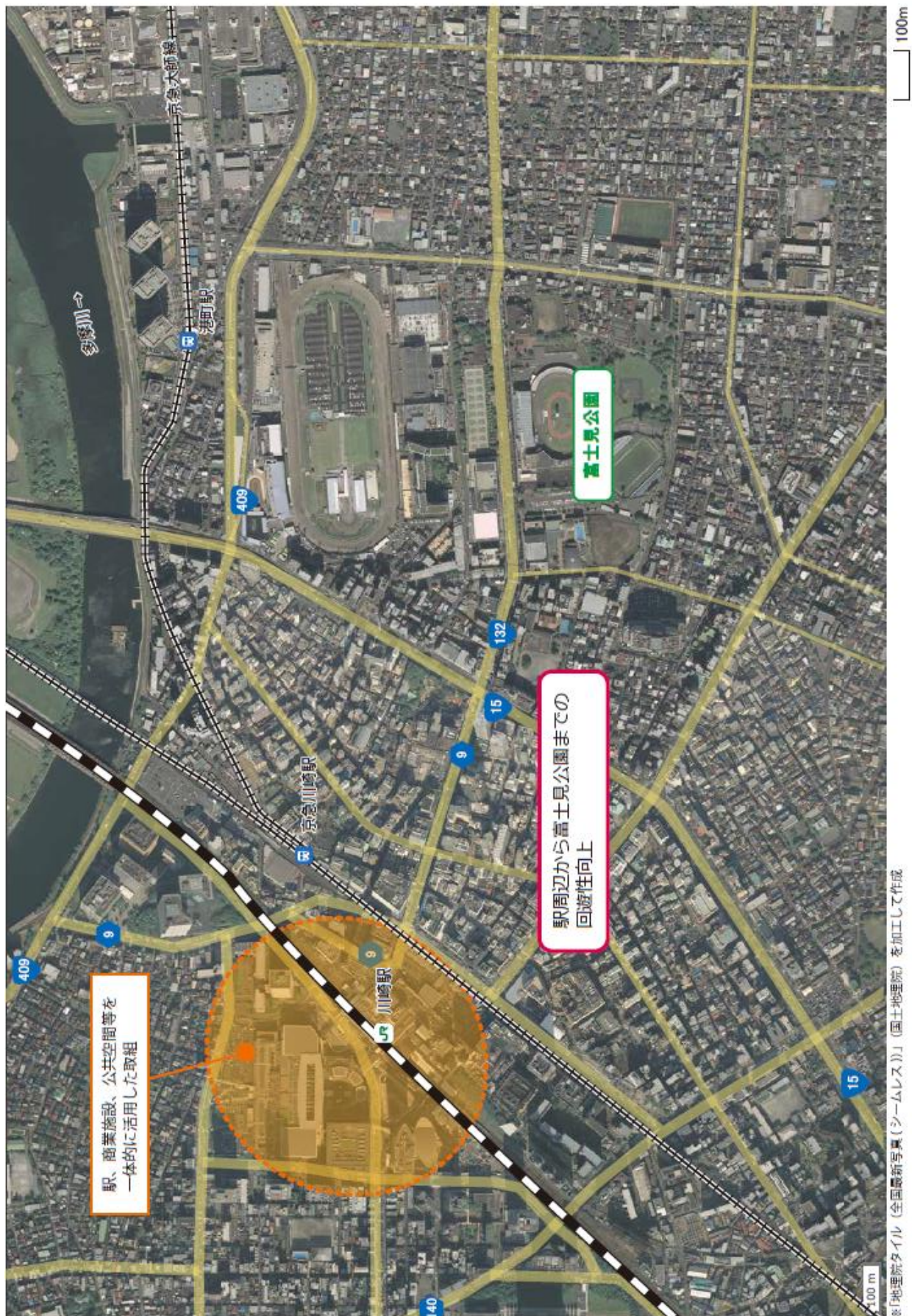
＜取組イメージ＞



＜ゾーニングイメージ＞



＜参考：コア会場及び周辺の連携イメージ＞



イ 等々力緑地

<コンセプト> スポーツの聖地・緑と水の拠点

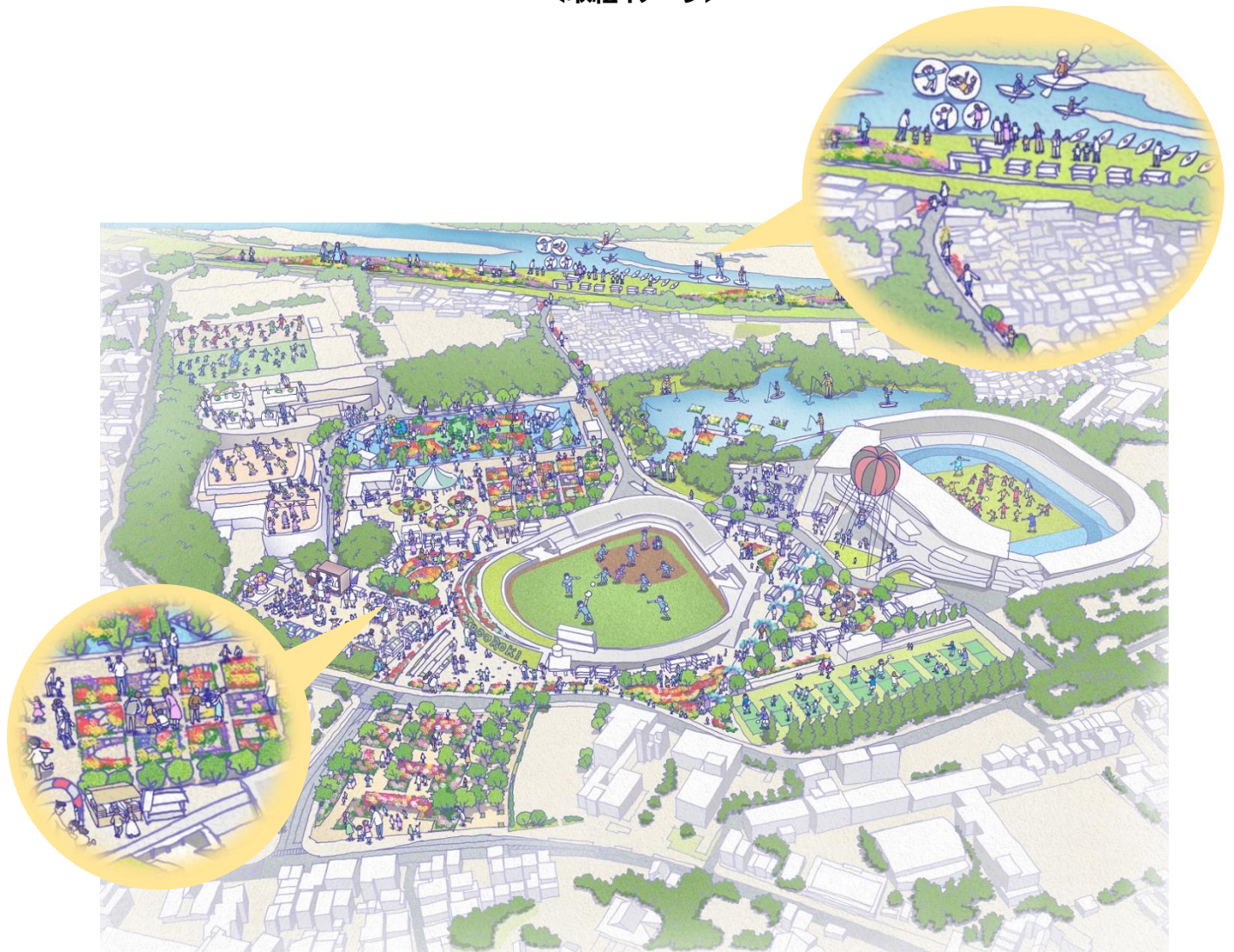
多摩川に隣接し、本市を代表するスポーツ拠点であるとともに、みどりに親しむ広場スペースを有する等々力緑地では、多彩なスポーツと豊富な緑、水とのつながりを軸として、エンターテインメント性の高い展示、演出により、街中に賑わいがあふれ、誰もがみどりに親しみ、文化的で豊かな暮らしを体感できる取組を展開します。

<取組イメージ>

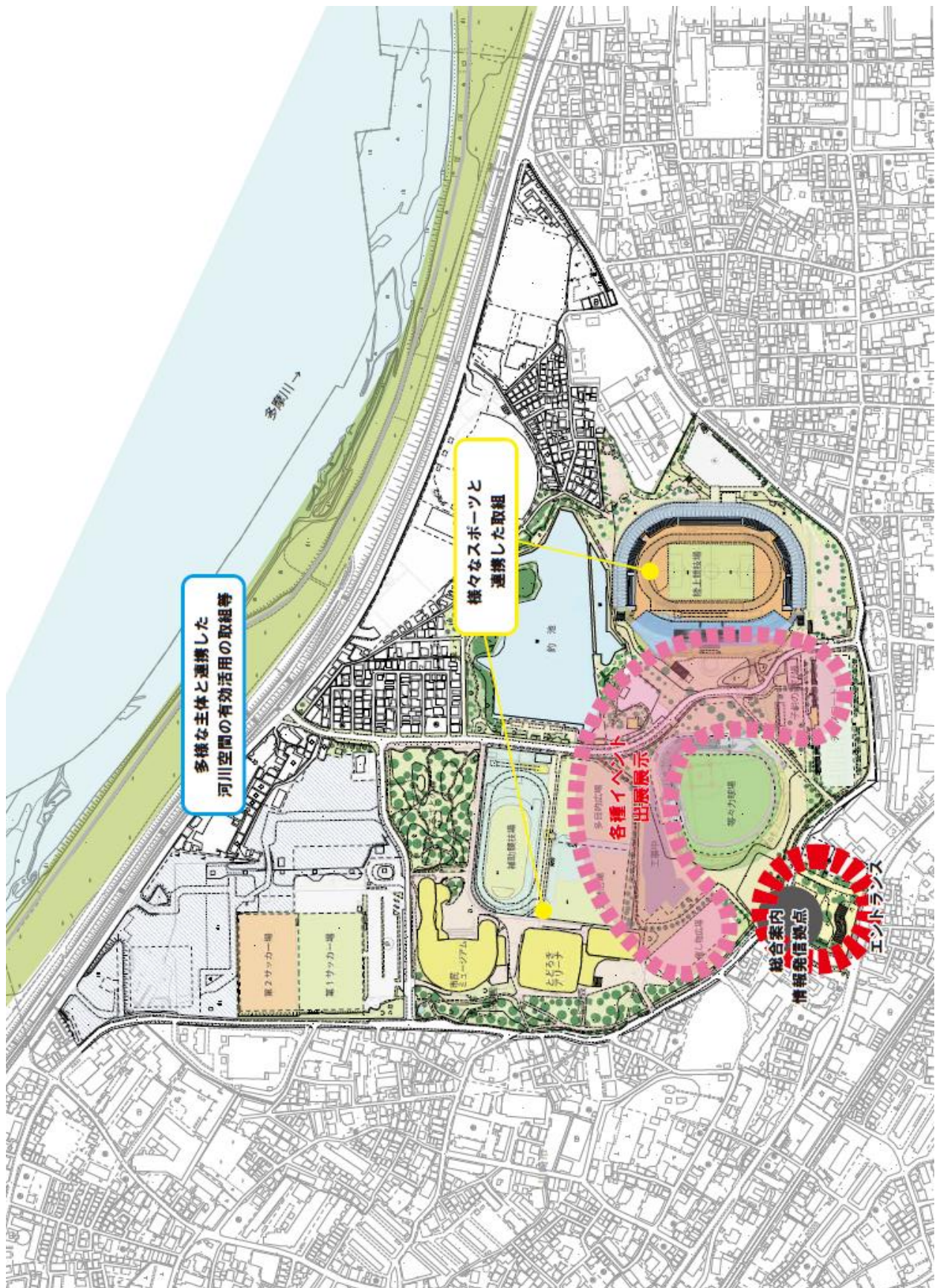
- ・等々力緑地では、多彩なスポーツと緑、水を活かした様々な体験型プログラムなどを展開します。
- ・地域で活動する様々な団体が、みどりや水辺のオープンスペースの新たな使い方を提案し、居心地がよく快適な空間を体感できる機会を提供します。
- ・多様な主体とコラボレーションしながら、本市の持つ豊かな自然や水辺環境等を知り、学び、体感できる取組を展開します。



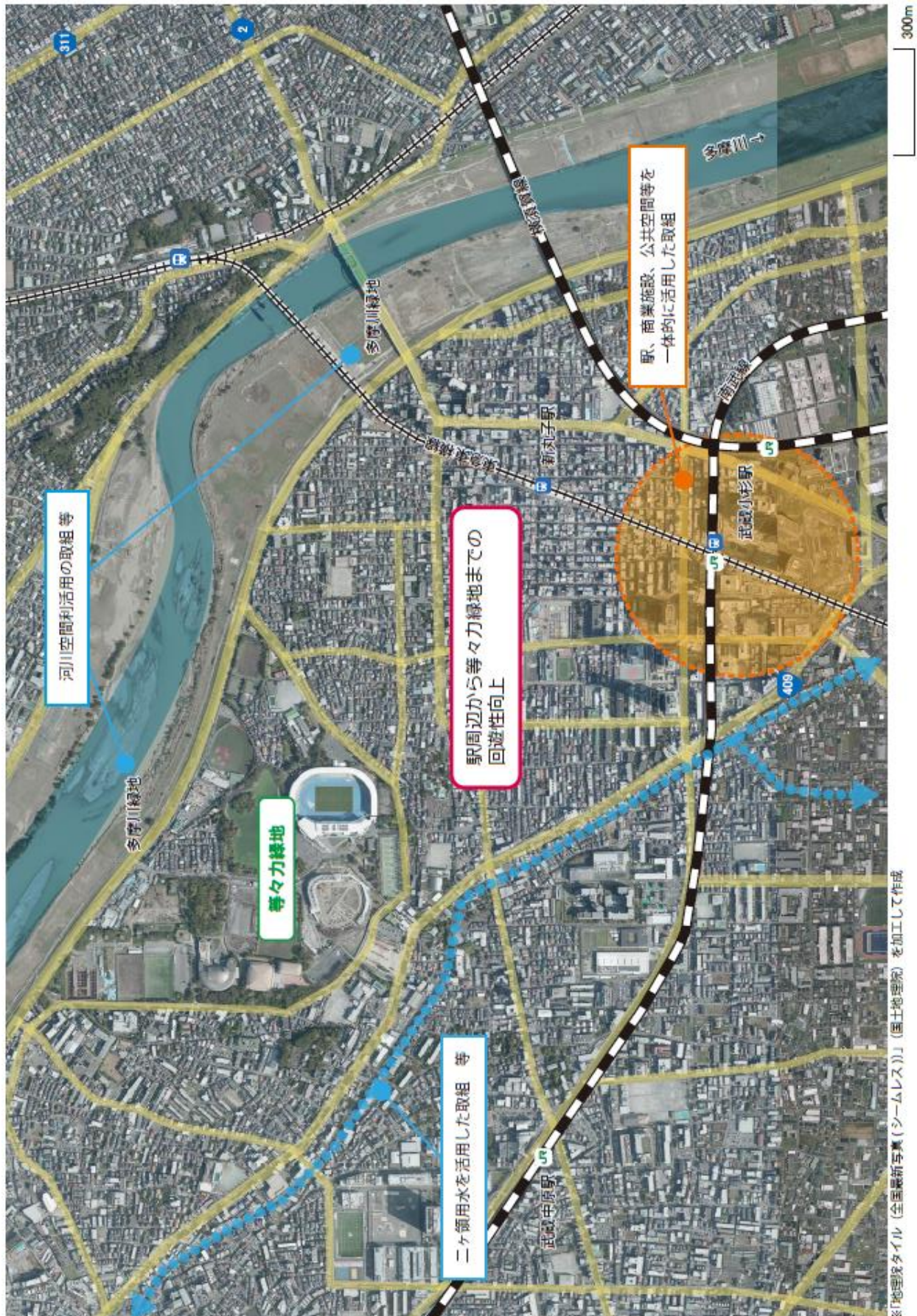
<取組イメージ>



<ゾーニングイメージ>



＜参考：コア会場及び周辺の連携イメージ＞



ウ 生田緑地

<コンセプト> 豊かな自然と歴史・文化・芸術の拠点

多様な動植物、遺跡などが残された市民の貴重な財産である生田緑地では、これまでの保全と活用の歴史を振り返り、「市内随一の緑の宝庫」であるポテンシャルと、教育、文化、芸術機能を活かした取組やみどりの持つ新たな魅力と保全の大切さを体感できる取組を展開します。

<取組イメージ>

・生田緑地では、協働のプラットフォームとして、生田緑地マネジメント会議による様々な協働の取組が進められていることから、これまで培ってきた市民協働の取組を全国に発信します。



・大学や地域の活動団体、市民ボランティア、各施設のガイド等と連携し、生物多様性などみどりがもたらす効果について遊びながら知り、楽しく学べる環境教育や保全活動等の体験学習プログラムを通じて、協働の担い手の育成につながる取組を展開します。

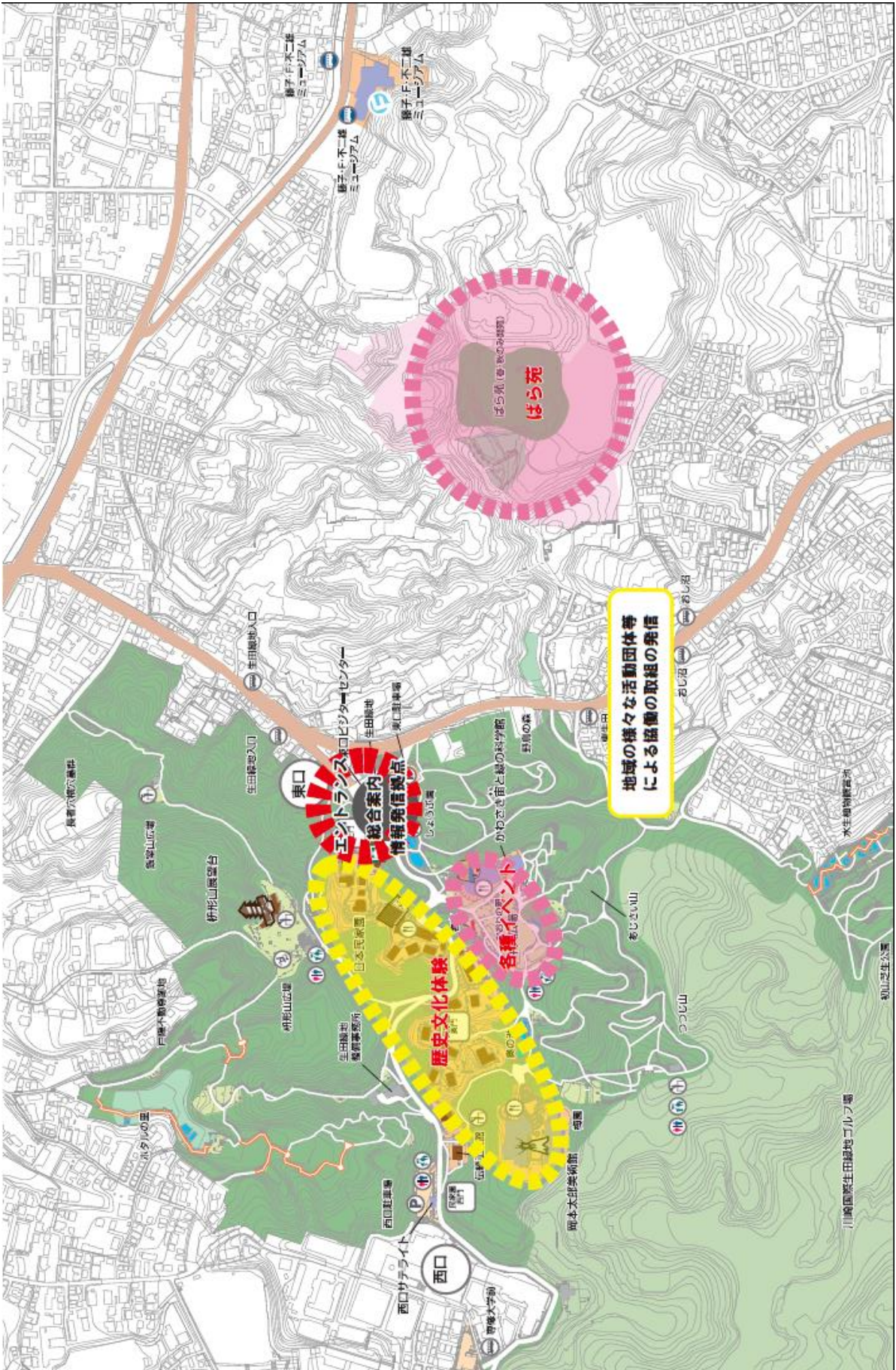


・ばら苑などの豊かな自然環境や、歴史・文化・芸術といった多様な魅力に触れ、感じることでできるプログラムを展開します。

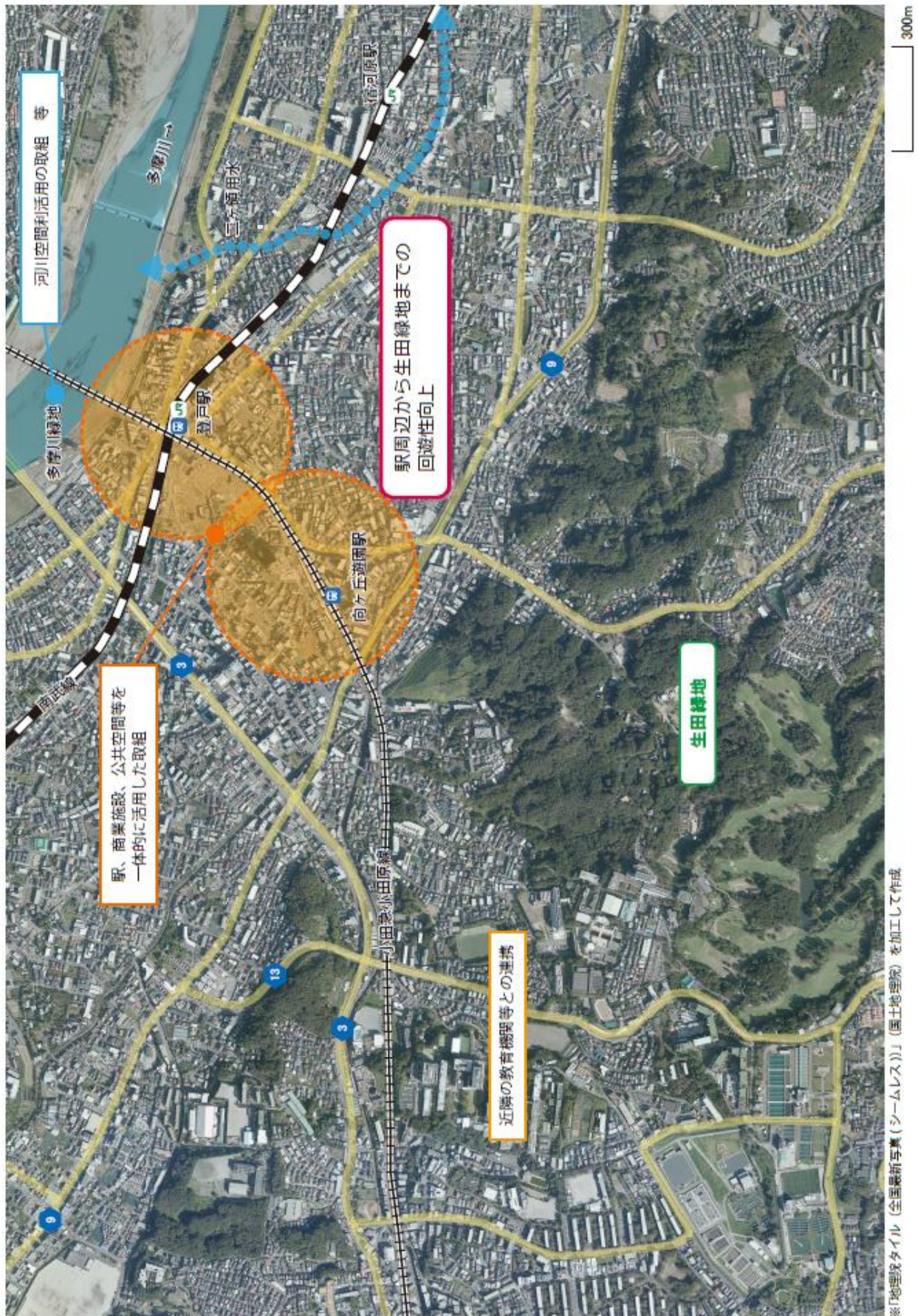
<取組イメージ>



＜ゾーニングイメージ＞



＜参考：コア会場及び周辺の連携イメージ＞



※「地理院タイル（全国最新写真（ズームレス）」（国土地理院）を加工して作成

(3) 協賛・連携会場等

ア 身近なみどりや地域の多様なオープンスペースを活用した会場展開

- ・地域の身近なオープンスペースを活用して、市民が日常的に集い、憩える居心地のよい空間を創出するとともに、新たなつながりを生み出すコミュニティ形成の場（まちのひろば）として、多様なライフスタイルに柔軟に対応したオープンスペースの新しい使い方を示します。
- ・街路や公園などの公共空間と駅、商業施設、民有空地等を一体的に活用して、市民、企業、行政等の協働・共創により、地域の課題解決やまちの価値向上につながる、先進的な取組を発信します。
- ・本市の特色の一つであるまちなかの貴重な都市農地における様々な取組を発信し、地域の生産者等と連携し、川崎の農の魅力を知り、学び、体感できる取組を展開します。
- ・各家庭や職場などの身近な空間において、かわさきフェア開催前から、みどりの持つ多面的なストック効果などの普及啓発等を通して、市民一人ひとりが、それぞれの暮らしの中でみどりの関わりを持ち、自発的な行動習慣として根付いていくような、みどりに親しみ、その効果を実感できる取組を展開します。

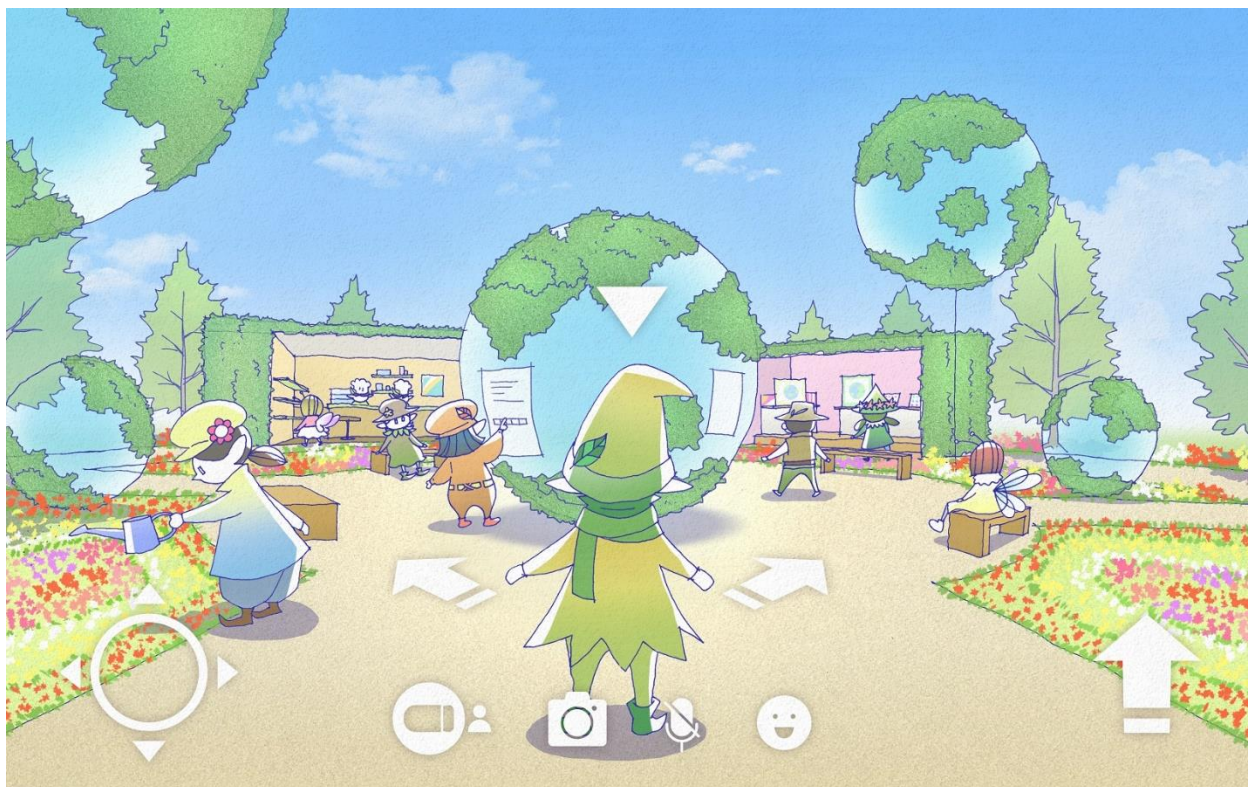
<会場イメージ>



イ 先進技術の活用による会場展開

- ・先進技術を活用したバーチャル空間（仮称「バーチャル川崎」）の構築や、5G、IoT による各会場とデジタル空間の接続など、誰もがかわさきフェアを体感し、参加できるバーチャル会場の構築を検討します。

<会場イメージ>



4 事業計画

(1) 協働推進

- ・本市では、これまで、市民、民間企業、教育機関等の多様なステークホルダーとの協働の取組を推進してきたことにより、樹林地等の保全管理、緑化、公園等の管理運営及び水辺、農地の保全等に関する活動が市内全域に広がるとともに、環境学習など地域特性に応じた様々な個性的な取組が展開されています。
- ・これまでの市民協働の取組も大切にしながら、かわさきフェアでの体験を通して、これまで継続的に活動している地域の団体等と、川崎の未来を担う子どもたちや若者が出会い、互いが互いを知りながら、一緒に楽しみ、体験する機会を創出することで、新たなつながりを生み出します。
- ・さらに、企業、地域の団体等を巻き込み、先進技術の活用など、かわさきフェア開催以降につながる新たな協働・共創による仕組みの構築につなげていきます。

【展開イメージ】

- ・市民一人ひとりが、みどりに興味を持ち、みどりに関わる自発的な行動につながるような様々な機会の提供
- ・環境教育や自然体験、農とふれあう体験学習プログラムなどの機会を通して、市民や地域の様々な団体等と一緒に体験し、楽しみながら、新たな交流を生み出す場の提供
- ・各区やまちのひろばの取組等と連携して、花やみどりを活用した、市民、企業、行政等の様々な主体のつながりを生み出すきっかけの提供
- ・SNS やアプリなどの ICT を活用した、市民、地域の活動団体、商店街、民間企業、教育機関、行政などが互いにつながることによる、かわさきフェア終了後も活動を継続・発展していくことができる持続可能な協働・共創の仕組みづくり 等



(例) 子どもたちによるかわさきフェアに向けた花苗の育成



(例) 地域の様々な主体による協働・共創の仕組みづくり

<参考：市内における協働の取組事例>

・教育機関等と連携した自然体験や環境学習の取組

人と自然が共生する持続可能な里山環境を目指して、大学等の教育機関と連携して、自然環境の保全・育成や生物多様性についての研究に取り組むとともに、自然環境の尊さ、面白さを知ってもらうことを目的とした体験学習の機会を創出しています。



・地域の活動団体による保全活動

特別緑地保全地区等の保全緑地を、良好な里山環境として維持・再生していくために、市民や地域の活動団体との協働により、樹木の手入れや湿地の保全などの持続的な維持管理を推進しています。また、環境教育や自然観察会の開催等、地域コミュニティの形成の場として、里山の利活用に積極的に取り組んでいます。



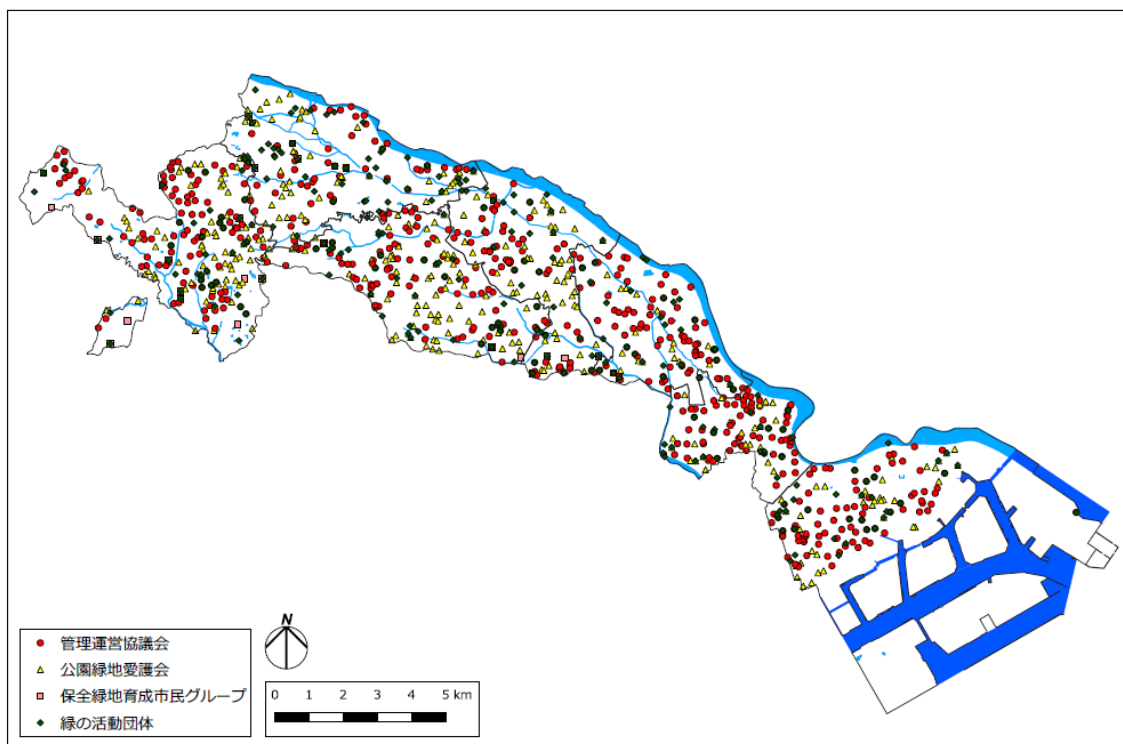
水辺のある里山を守る会【黒川よこみね特別緑地保全地区】



日向山うるわし会【東生田みどりの保全地域】

<参考：市内の活動団体マップ>

本市では、樹林地等の保全や緑化、公園等の日常的な管理などに関する活動を行う市民、企業及び教育機関等の多様な主体との協働の取組が市内全域で展開されています。



令和 3（2021）年 4 月時点

団体名	団体数
管理運営協議会	577 団体
公園緑地愛護会	343 団体
保全緑地育成市民グループ	31 団体
緑の活動団体	268 団体

(2) 出展展示

- ・多様なみどりを活用し、様々な分野の取組と連携して、先進技術等の手法も駆使しながら、本市の魅力や強みを発信する取組を展開します。
- ・市民の日常生活に溶け込んだ、身近なみどりの魅力を体感できるような企画展示を展開します。

【展開イメージ】

- ・多様なみどりと、環境、教育、文化、歴史、農、福祉、先進技術等の各分野と連携した川崎の多様性あふれる魅力や強みを感じる機会の創出
- ・身近なみどりの魅力を体感し、暮らしの中にみどりを取り入れる楽しさ、心地よさを感じる展示
- ・他自治体と連携した出展花壇 等



(例) 川崎国際環境技術展



(例) 市内のオープンガーデン



(例) 川崎市出展花壇（第36回信州フェア）

(3) 行催事

- ・既存イベントや地域の取組と連携した市民発信型の行催事をかわさきフェア開催前から展開します。
- ・川崎の多様なみどりや水などの特色ある自然の魅力を知り、体感できる取組を推進します。
- ・これまでの 100 年で培ってきた川崎の魅力や強みを発信します。
- ・市制 100 周年に合わせた記念事業などと連携した取組を推進します。

【展開イメージ】

- ・市民、企業等が主体となったこれまでの取組の成果を発信する、コンクール、シンポジウムなどの開催
- ・かわさきフェア開催前から、市民、企業、団体等と連携した取組による普及啓発、機運醸成
- ・市内の各会場を回遊し、各会場の魅力を体感するプログラムの展開
- ・市民、企業等とともに盛り上げ、川崎の多様性あふれる魅力や強みを市内、全国に発信するための公式行事（内覧会、開閉会式、全国都市緑化祭等）の実施
- ・他自治体等の参画による自治体間のネットワーク形成・交流に向けた取組 等



(例) スマートライフスタイル大賞



(例) 多摩・三浦丘陵の市民と緑をつなぐシンポジウム



(例) わがまち花と緑のコンクール

(4) 会場運営

- ・市民、地域の活動団体、NPO、学校、企業等の多様な主体と連携・協働した運営手法を導入し、環境や安全面に配慮するとともに、誰もが快適に参加できるような適切な会場運営を行います。

【展開イメージ】

- ・多様な主体との連携・協働体制の構築による市民総参加型の会場運営
- ・市内の企業、団体等の参画促進のための多様な協賛形態の構築、募集の実施
- ・既存施設の効果的な活用や再生可能エネルギーの利用の検討など、環境に配慮した会場整備
- ・A I を用いた人流分析、評価による混雑対策の検討 等



(例) 多様な主体との連携・協働による会場運営

(5) 広報宣伝

- ・川崎の多様性や魅力を全国に発信するとともに、すべての世代に幅広く浸透させるため、かわさきフェア開催前から広報を展開し、機運を高めます。

【展開イメージ】

- ・地域の様々な情報媒体や SNS 等の活用による戦略的な広報
- ・シティプロモーションと連携した効果的な取組の発信
- ・地域愛の醸成につながる農産物や特産品等を活用した川崎の魅力の発信
- ・会場の一体感を高めるため、市内全域で展開される取組や活動のリアルタイムな情報の発信
- ・ICT 等の積極的な活用による情報インフラの整備、活用 等

(例) SNS を活用した広報宣伝
(出典：富山市 amazing_toyama)



(6) 植物調達

- ・かわさきフェアの行催事や出展展示等において使用する花き・植物について、数量、品種も多量となることから、市内生産団体等と連携・協力して、市場への影響にも考慮した植物調達体制を構築します。

- ・地域で生産されている花き・植物を積極的に活用することで、認知度とブランド力を高め、かわさきフェア終了後も需要が持続する取組を検討します。

【展開イメージ】

- ・地域の生産者、造園業者や教育機関、企業等と連携・協力した計画的かつ安定的な生産・供給体制の構築
- ・各会場の既存の花き・植物等を活かした生物多様性や生態系に配慮した植物供給の検討
- ・かわさきフェア終了後の持続的な花き・植物需要の創出に向けた方策の検討（花苗→枯れた後の堆肥化→新たな花苗への施肥のようなモデル等の展開） 等



(例) ロスフラワー活用

(7) 交通輸送

- ・公共交通機関の利用を前提としつつ、多様な交通手段と連携し、来場者の円滑な輸送手段を確保し、市内各会場間の回遊性の向上を図ります。
- ・環境に配慮した交通輸送を展開します。

【展開イメージ】

- ・交通負荷の抑制や人流を分散する先進技術（MaaS 等）の積極的な活用を検討
- ・バス、電車、シェアリングサービス等の活用による、利便性が高く市内各会場への移動が楽になる仕掛けの検討
- ・既存の公共交通機関の利用促進及び交通量増加等による周辺への影響を踏まえた複数動線の設定、車両誘導、駐車場確保等の交通対策の実施
- ・温室効果ガスの抑制など交通輸送時の環境負荷低減に向けた輸送計画の検討
- ・A I などを用いた交通対策による交通混雑の緩和方策の検討 等



(例)「しんゆり MaaS」実証実験
(出典：小田急電鉄)

(8) 飲食・物販

- ・生産者や飲食店等と連携・協力して、地域の農産物や特産品等を使用した川崎ならではの魅力ある飲食・物販サービスを提供します。
- ・衛生や環境面に配慮したサービスを提供します。

【展開イメージ】

- ・生産者や飲食店、民間事業者等と連携した川崎の特産品の提供
- ・川崎の農産物等を使用した料理や川崎ならではの食文化の発信につながるご当地グルメ等の提供
- ・感染症対策の徹底や食品ロス対策、容器のリユース・リサイクルなどの取組の推進
- ・地域の商店街や飲食店等をめぐりながら川崎の食の魅力を体感できるプログラムの提供 等



(例) 花と緑の市民フェア 等



(例) Vege & Art Fes 等



※飲食事業者、生産者等と連携した、市内農産物を活かした食の提供や植物の展示、販売等を行います。

5 推進体制

(1) 実行委員会の設置

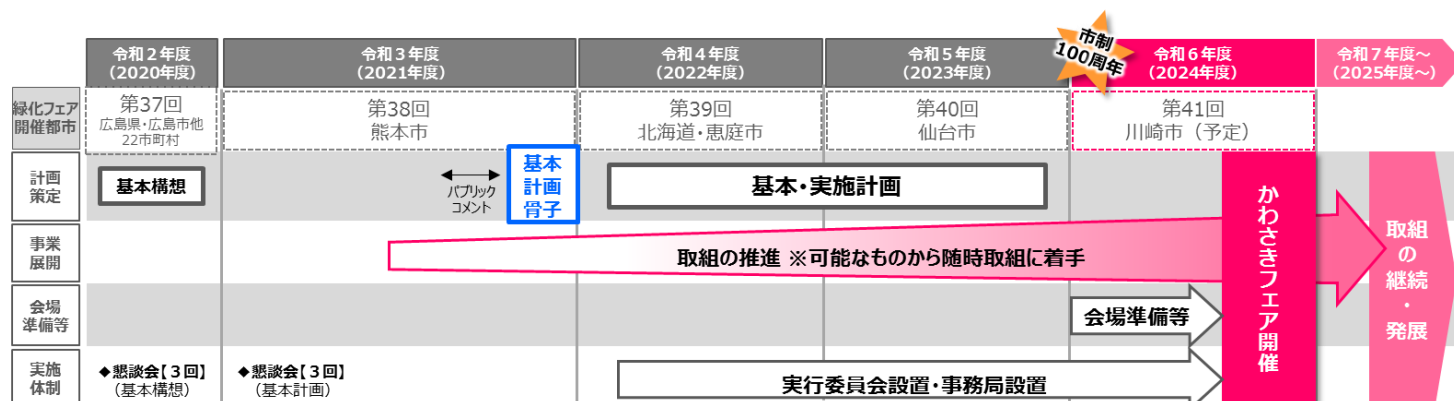
かわさきフェアの円滑な事業推進・協力連携や市制 100 周年に合わせて行われる記念事業などとの連携を目的に、主催者、学識経験者、各分野の関係団体等により構成する実行委員会を設置します。

(2) 実行委員会事務局の設置

かわさきフェアの実施にあたり、実行委員会の事務処理等を行うため、市制 100 周年に合わせて行われる記念事業などとの連携を踏まえて、実行委員会事務局を設置します。

6 スケジュール

令和 3（2021）年度に策定する基本計画骨子を踏まえ、令和 4（2022）年度に設置する実行委員会において基本・実施計画を策定し、かわさきフェア開催に向けた取組を推進します。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市